

2015年夏季ボーナスアンケート調査（宮崎県内） ～インターネットアンケート調査～

当研究所は、宮崎県内における消費動向あるいは生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。夏季調査では、インターネットによるアンケートを実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. 夏季ボーナスは、全体の72.1%が「支給される」と回答した。増減見込みは「同じくらい」が61.3%と、前年並みを見込む回答が最も多い。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満（35.2%）」が最も多い。
3. 使いみちは「貯蓄（70.1%）」が最多で、貯蓄の目的は「病気・災害の備え（43.0%）」貯蓄の方法は「定期性預貯金（61.0%）」が最も多い。
4. ローン返済は、「住宅関連（53.8%）」が最も多い。
5. ボーナスでの購入予定品は「衣料品（51.5%）」に次いで「日用品のまとめ買い（22.8%）」が多く、買物予定先は「ショッピングセンター（59.4%）」が最多だった。県外での買物予定地は、九州4市（※）の中で「福岡市」「熊本市」「鹿児島市」がいずれも同率（33.3%）となった。
6. 生活状況は「変わらない（60.0%）」が最も多く、生活状況DIは「▲12.8」とマイナスの状態、改善の実感に乏しい。

※ 福岡市、大分市、熊本市、鹿児島市の4市

調査の実施要領

調査時期：2015年5月18日（月）～5月22日（金）

調査対象：宮崎県内の給与所得者

調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）

回答者数：523名

回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	
20歳代以下	102	19.5	独身	子供有り	37	7.1	男性	281	53.7
30歳代	142	27.2		子供無し	174	33.3	女性	242	46.3
40歳代	149	28.5	既婚	子供有り	252	48.2	合計	523	100.0
50歳代以上	130	24.9		子供無し	60	11.5			
合計	523	100.0	合計	523	100.0				

※四捨五入の関係で内訳の総和と合計は必ずしも一致しない。

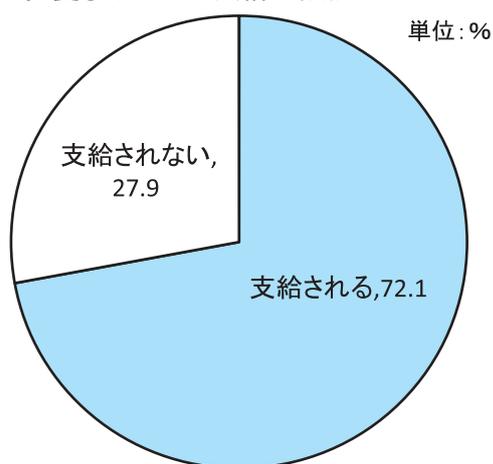
※同調査は、1979年より2014年夏季調査まで、宮崎銀行の営業部にて質問票を配布する手法で実施してまいりましたが、対象先をインターネット経由に変更した関係で、前年の結果との比較は控えています。

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が72.1%

夏のボーナスは「支給される」が72.1%、「支給されない」が27.9%と、全体の約7割が、ボーナスが支給されると回答した(図1)。

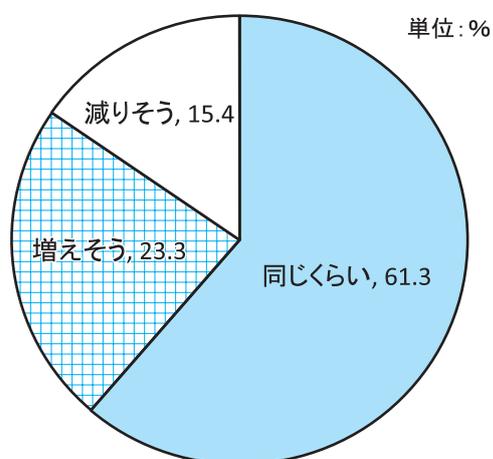
図1. 夏季ボーナス支給の有無



(2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

今回のボーナス支給見込みは、前年と「同じくらい」が61.3%と最も多く、以下「増えそう(23.3%)」「減りそう(15.4%)」と、約6割が前年並みのボーナス支給額を見込んでいた(図2)。

図2. 夏季ボーナスの増減見込み



年代別でも、全ての年代で「同じくらい」の回答が最も多い(表1)。「増えそう」は、50歳代以上を除き「減りそう」を上回る結果となり、3月期に実施した企業動向アンケートで、資金繰りの現状DIが前期比+4ポイント(以下「P」)改善したことも、ボーナスの支給額に反映しているとみられる。

表1. 増減見込み(年代別)

年代	増減	増えそう	同じくらい	減りそう
20歳代以下		35.4	52.3	12.3
30歳代		24.2	59.3	16.5
40歳代		22.9	60.2	16.9
50歳代以上		12.7	72.2	15.2

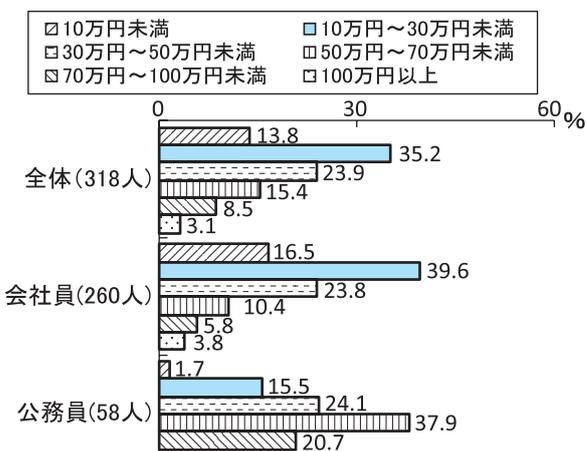
2. ボーナスの見込み額

「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円~30万円未満(35.2%)」が最も多く、「30万円~50万円未満(23.9%)」と続いた(図3)。

会社員は、「10万円~30万円未満」が39.6%と最も多く、次いで「30万円~50万円未満(23.8%)」で、両者を合わせた回答は全体の約6割を占めた。

図3. ボーナスの見込み額



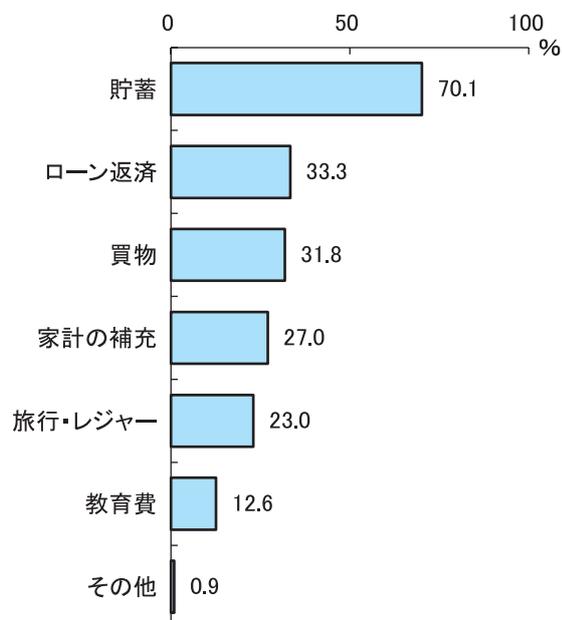
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄(70.1%)」が最も多く、以下「ローン返済(33.3%)」「買物(31.8%)」「家計の補充(27.0%)」と続いた(図4)。

支給見込み額(前頁図2)は、「同じくらい(61.3%)」が多いものの、使いみちでは「貯蓄」が2位以下の回答を大きく上回り、消費を抑える傾向にある。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



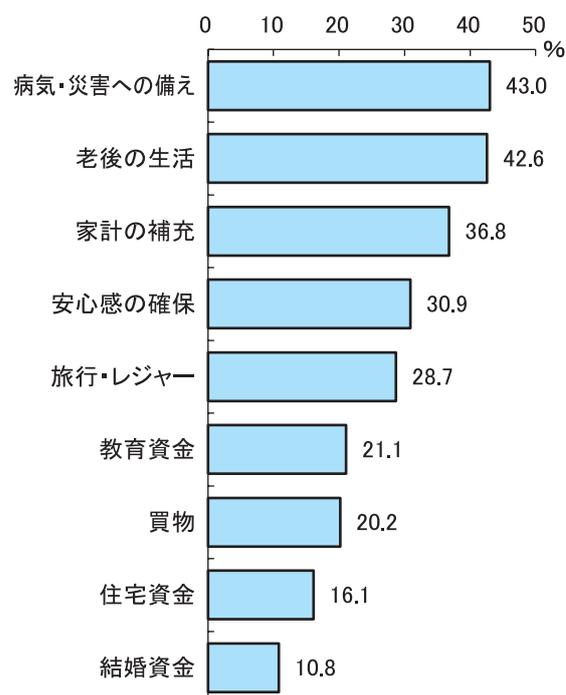
(1) 「貯蓄」

①貯蓄の目的(複数回答)

「病気・災害への備え」が最多

貯蓄の主な目的は「病気・災害への備え」「老後の生活」がそれぞれ4割を超えるなど、将来の医療費や社会保障費などへの関心の高さを示す結果が表れた。また、「家計の補充」も36.8%あり、消費税率引上げ後の家計の赤字補填など防衛色が強い(図5)。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)



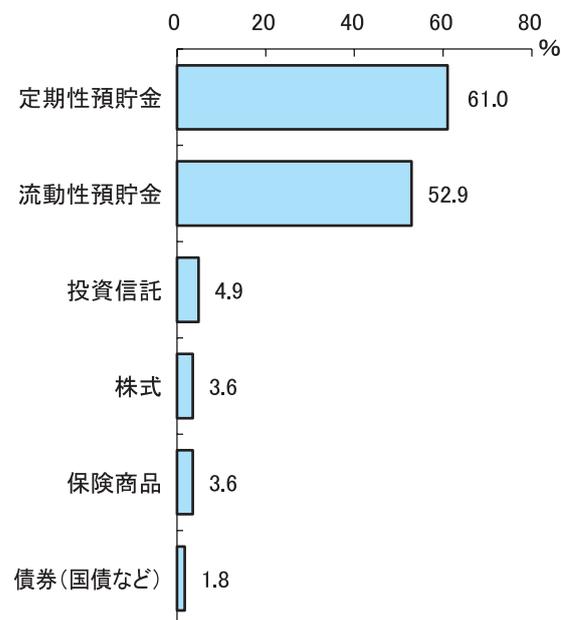
②貯蓄の方法(複数回答)

「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「定期性預貯金」が61.0%で最も多く、2位が流動性預貯金(52.9%)で、預貯金志向が強い(図6)。

3位以下は回答率が1割未満で、預貯金以外の割合は総じて低い。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



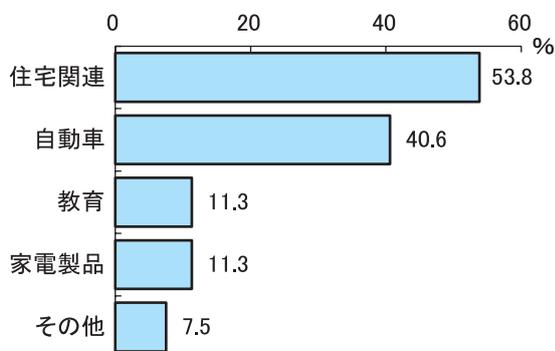
(2) 「ローン返済」(複数回答)

「住宅関連」「自動車」が2大項目

ローン返済では「住宅関連 (53.8%)」と「自動車 (40.5%)」の回答が1、2位を占めた。

今回の調査は、30~40歳代の回答者や既婚で子供有りの回答者の数が多いことから住宅の所有者も多いと思われ、返済予定の内容に反映したとみられる(図7)。

図7. ローン返済予定の内容(複数回答)



(3) 「買物」

①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品 (51.5%)」が最も多く、「日用品のまとめ買い (22.8%)」「靴・バッグ類 (21.8%)」と続いた(図8)。

年代別は、20歳代以下で「アクセサリ・腕時計」「靴・バッグ類」「美容・健康器具」の割合が高い(表2)。30歳代は「スマートフォン」「パソコン」等電子機器商品の割合が高く、40歳代は「冷房機器(エアコンを含む)」「家具・家財」など、生活用品の割合が高い。50歳代以上は「贈答品」の回答率が比較的高かった。

図8. 購入予定品(複数回答)

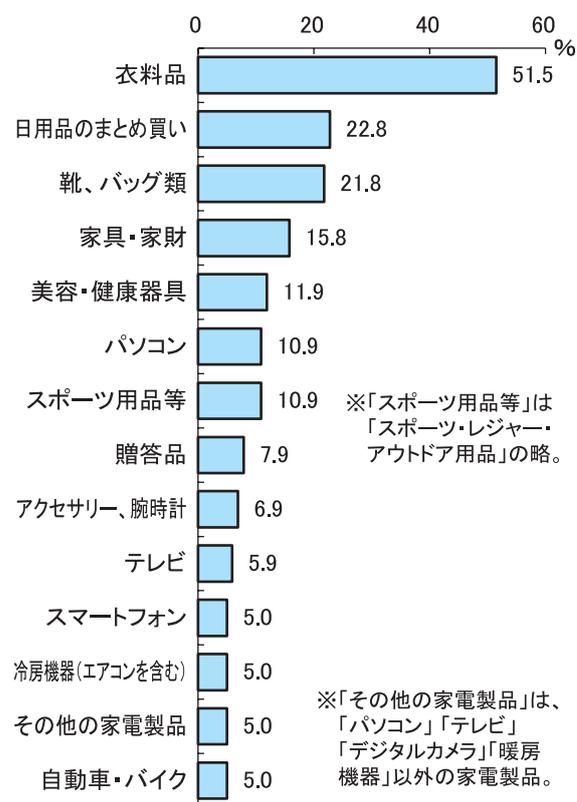


表2. 購入予定品(年代別内訳)

単位: %

購入予定品	年代			
	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代以上
衣料品	19.2	30.8	26.9	23.1
日用品のまとめ買い	8.7	30.4	17.4	43.5
靴、バッグ類	45.5	31.8	9.1	13.6
家具・家財	12.5	25.0	37.5	25.0
美容・健康器具	41.7	25.0	25.0	8.3
パソコン	18.2	54.5	18.2	9.1
スポーツ用品等	18.2	45.5	27.3	9.1
贈答品	-	37.5	-	62.5
テレビ	16.7	33.3	33.3	16.7
アクセサリ、腕時計	71.4	28.6	-	-
スマートフォン	-	60.0	20.0	20.0
冷房機器(エアコンを含む)	-	40.0	40.0	20.0
その他の家電製品	40.0	-	-	60.0
自動車・バイク	-	60.0	20.0	20.0

横軸で最も高い

②買物予定先の店舗形態(複数回答)

ショッピングセンターがトップ

買物予定先の店舗形態では「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(59.4%)」が最多で、以下「通販・ネット販売(48.5%)」「専門店(34.7%)」となった(次頁表3)。

居住地別にみると、宮崎市、延岡市は「SC」が6割を超えたほか、都城市も58.3%が「SC」と回答した。「通販・ネット販売」は宮崎市が59.6%と最も多かった。

表3. 買物予定先の店舗形態（複数回答）

		単位：%				
買物先 居住地	SC (大型店)	通販・ ネット販売	専門店	デパート・ 百貨店	量販店	
全体	59.4	48.5	34.7	33.7	26.7	
宮崎市	63.8	59.6	40.4	34.0	19.1	
都城市	58.3	50.0	33.3	41.7	25.0	
延岡市	66.7	8.3	16.7	33.3	33.3	

③買物予定地（複数回答）

「宮崎地区（注1）」「都城地区（注2）」「延岡地区（注3）」は、いずれも買物予定地を地元とする回答が最も多く、中でも「宮崎地区」は94.5%と際立っている（表4）。

「都城地区」も、地元（69.2%）の次に「宮崎市（61.5%）」の回答が多い。

「延岡地区」は地元に次いで「県外」が27.8%あった。

表4. 買物予定地（複数回答、居住地別）

		単位：%			
買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	県外	
宮崎地区（注1）	94.5	-	-	16.4	
都城地区（注2）	61.5	69.2	-	23.1	
延岡地区（注3）	22.2	5.6	66.7	27.8	

（注1） 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡

（注2） 都城市、北諸県郡

（注3） 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡

④県外での買物予定地（複数回答）

表4の「県外」の内訳では、「福岡市」「熊本市」「鹿児島市」が同率（33.3%）となり、次いで「大分市（22.2%）」となった（表5）。

表5. 県外での買物予定地（複数回答）

		単位：%			
買物地 年	福岡市	熊本市	鹿児島市	大分市	
2015年	33.3	33.3	33.3	22.2	

4. 最近の県外での買物動向

（1）買物頻度

最近1年間で県外主要4市へ買物に行った頻度は、全ての市で「1回」が最も多く、「熊本市」は5割を超えた。

鹿児島市は、「2～4回」が39.8%と他の市より多かった（表6）。

表6. 県外での買物頻度（複数回答）

		単位：%			
買物地 頻度	福岡市	熊本市	鹿児島市	大分市	
1回	49.1	55.5	45.0	50.0	
2～4回	39.3	34.2	39.8	37.0	
5～9回	5.8	5.5	7.6	6.5	
10回以上	5.8	4.8	7.6	6.5	

（2）交通手段

県外主要4市への交通手段は、「福岡市」を除く3市で「乗用車」が約9割と、圧倒的に多い。福岡市も「乗用車（52.7%）」が最も多いが、「高速バス」も約3割あり、他の3市に比べて、長時間の運転を避け、利便性の高い高速バスを利用する割合が高い（次頁表7）。

表7. 県外主要4市への交通手段 単位：%

買物地 交通手段	福岡市	熊本市	鹿児島市	大分市
乗用車	52.7	89.0	90.6	92.2
高速バス	32.6	8.9	1.2	3.2
J R	4.5	1.4	7.6	3.9
飛行機	10.3	-	-	-

5. 今後の旅行・レジャー先(複数回答) 「九州内」が最多

今後の旅行・レジャー先は、「九州内(72.2%)」が最多で、以下「関東・甲信越(35.4%)」「県内(29.3%)」と続いた(図9)。

年代別では、「九州内」において40歳代の割合が最も高い(表8)。20歳代以下は「海外」が4割を占め、50歳代以上は「中国・四国」の回答率が高かった。

図9. 旅行・レジャーの予定先(複数回答)

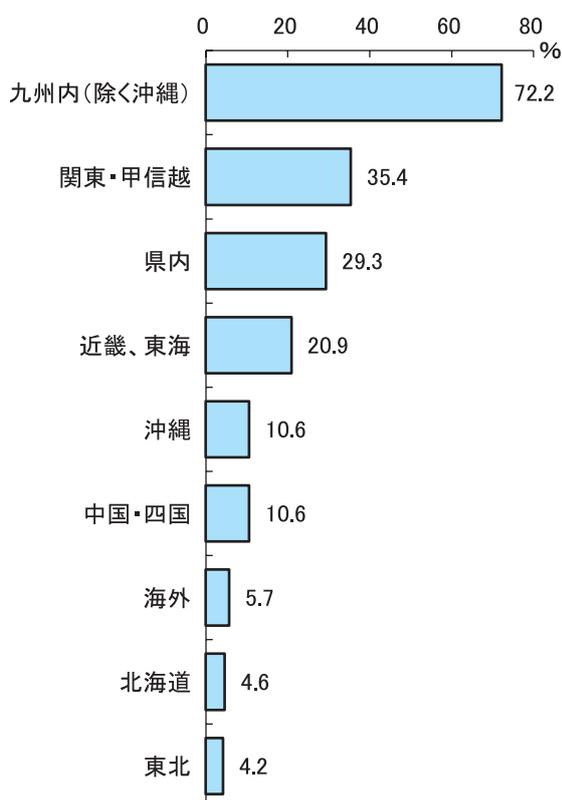


表8. 旅行・レジャー先(年齢別) 単位：%

行先	年代	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代以上
九州内(除く沖縄)		19.5	28.4	31.6	20.5
関東・甲信越		24.7	28.0	22.6	24.7
県内		18.2	29.9	32.5	19.5
近畿、東海		25.5	23.6	29.1	21.8
沖縄		28.6	35.7	17.9	17.9
中国・四国		21.4	21.4	25.0	32.1
海外		40.0	40.0	6.7	13.3
北海道		8.3	25.0	41.7	25.0
東北		9.1	36.4	36.4	18.2

■ 横軸で最も高い

6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が約6割

現在の生活状況は、「変わらない(60.0%)」が最も多く、「悪くなった」が26.4%、「良くなった」は13.6%で生活状況DI(注)は▲12.8となった(表9)。

生活状況別では、衣食住の生活面で、「変わらない」がそれぞれ最も多かったが、DIはいずれもマイナスで、「レジャー・余暇等」も▲17.2と生活に余裕がみられない。

ボーナス支給額では、前年並みを見込む回答が多い中、医療・災害、老後に備える貯蓄志向が高く、将来の不安や負担の軽減をボーナスに託す意向がうかがえる。(勝池)

表9. 現在の生活状況 単位：%, P

状況	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
生活				
全体	13.6	60.0	26.4	▲12.8
衣生活	9.6	70.9	19.5	▲9.9
食生活	9.8	68.5	21.8	▲12.0
住生活	8.4	77.4	14.1	▲5.7
レジャー・余暇等	13.4	56.0	30.6	▲17.2

(注) DI = 「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合